

①神護寺の釈迦涅槃像
山麓に横たわる巨石岩座に釈迦入滅の姿を刻み、昭和45年に釈迦像が完成しました。この釈迦像は拝む人々に遺訓を偲んでもらい、世界の平和に寄与することを願ってつくられたものです。全長7.88m高さ1.4mで西日本有数の大きさです。

②八面山平和公園
昭和45年5月7日に日米戦没者の慰霊と世界平和を祈念し、公園化を図りました。毎年5月3日に日米戦没者慰霊の集いが行われています。園内には「日米両国の友好と世界平和」の願いを込めて作られた少年平和像があり、世界の平和・協調・友愛を表現しています。



④ふるさと回想館 八面山荘
八面山の中腹に建つ宿泊・研修施設です。昼食や日帰り入浴、休憩など、お気軽にご利用下さい。
問合せ 0979-43-2608



車で楽々20分
のんびり歩いて、2時間

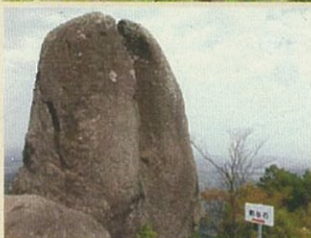
八面山へ登ろう

八面山山頂付近からの眺め

八面山の巨石



③箭山権現石舞台
古代巨石信仰の磐座で、昔、この石舞台で五穀豊穡・家内安全・病魔厄除のために箭山権現に神楽を奉納していたといわれています。縦19.3m、横13m、周囲57.3m、面積250㎡、畳152枚敷。石舞台としては日本一の大きさを誇ります。



⑥和与石
『八面山縁起』によると、和与石は「大宝元年（701年）に、八幡大菩薩が唐の国から帰り、英彦山にいた僧・法連と宝珠の授受につて争ったのち、この地で和与（和解）したときに御座した巨石」となっており、石体の大神であるといわれています。



⑨金色の鷹石・犬石
箭山神社にある巨石群の中で、鳥のくちばし形をしているのが鷹石、隣の低いところにあるのが犬石。和与石に縁のある巨石といわれ、八幡大菩薩が金色の鷹に変化し、金色の犬を召しつれて八面山に飛び帰り、法連と和与（和解）したのち、この巨石になったといわれています。

⑤八面山大池
池の主目的は農業用水としてのため池です。海門禅師が雨乞いすると、美しい女の顔をした龍が珠を受けて雨を降らせたという「龍の珠伝説」が残っています。



「夕陽を望む丘」からの眺め



⑦修験の滝
八面山を散策し、山頂に近づくと、岩を打つ「一の滝」の音が響いてきます。八面山は古来信仰の霊山とされており、修験道場として栄えていたことなどから、この滝は別名を「修験の滝」といわれています。

⑧箭山神社
箭山神社には、神功皇后、応神天皇、比売大神が祀られています。御神体は社殿左横にある巨石と社殿の南西にある八面山大池です。古記録などによると、「大宝元年（701年）に僧法連によって開かれた」とあり、参道左側には、開山を記念して建立された角塔婆が現存しています。（大分県では最も古い）



⑫しょうけのはな
昔、薦八幡の神が鬼と「三角池を一夜で掘れば、望みを叶える。しかし、掘れない時は立ち去れ。」と約束をし



掘らせた。薦八幡の神は夜明けを告げる鳥の鳴き真似をし、鬼を追い払った。その時鬼が使っていた「しょうけ」が山頂にひっかったことから「しょうけのはな」と名付けられたという伝説があります。